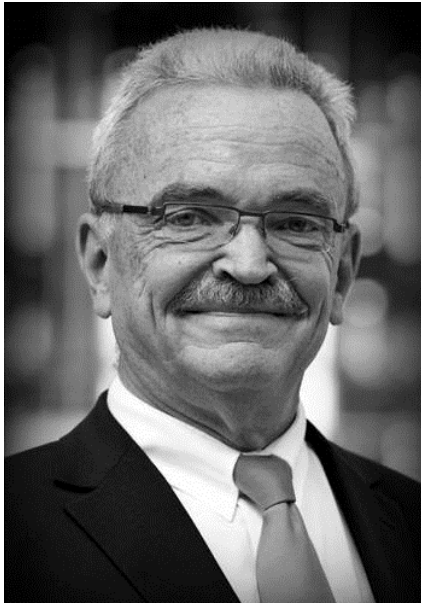


|||| 追悼文 ||||

## Hans J. Rath 先生 追悼

野村 浩司



Prof. Dr. Hans J. Rath  
(May 24, 1947 – Sep. 4, 2012)

2012年9月4日、ドイツ Bremen 大学教授であり、立ち上げ当初から ZARM (Zentrum für angewandte Raumfahrttechnologie und Mikrogravitation / Center of Applied Space Technology and Microgravity) の最高責任者を務めていらした Hans J. Rath 先生が逝去されました。享年 65 歳でした。ここに謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

Rath 先生は、1970 年から Hannover 大学で機械工学を勉強され、同大学において 1976 年に流体力学の分野で Ph.D. の学位を取得されました。ポスドクとしての研究経歴を経た後、1981 年から Bremen 大学の教授として精力的に研究・教育に従事されました。1983～1989 年には生産工学部長を務められ、その後もお亡くなりになるまで Bremen 大学教授の職にあられました。

マイクロ重力科学・技術分野への Rath 先生のご尽力は多大なものであり、1985 年に ZARM を設立、1987 年に国際的学術誌である Microgravity Science and Technology を発刊するなど、その功績は計り知れません。以来四半世紀以上に亘ってそれらの陣頭指揮を執ってこられました。

私が Rath 先生に初めてお会いしたのは、1989 年の私が博士課程 1 年生のときでした。ZARM と共同研究をされていた当時東京大学教授・河野通方先生に連れられて参加した日独研究者ミーティングでした。ドイツ人は体が大きくいつもしかめ面をしていて怖い、という勝手な思いこみをしていた私は、大変緊張してその場に臨んだことを覚えています。お会いした Rath 先生はすらっと背が高く、ニカッという感じの笑顔で握手をして下さり、私の間違っただけの先入観は払拭されました。その後、1990～1992 年まで私は Bremen に住ながら ZARM の落下塔で燃焼の実験を行い、Rath 先生の下、ZARM の草創期を過ごさせていただきました。落下塔のエレベータがまだ設置されていなかったために歩いて最上階まで上ったこと、落下塔最上階にある Rath 先生ご自慢のビアバー（当時は無料でした）で乾杯したこと、初めての落下実験で遠隔操作がうまくできずに夜遅くまで Rath 先生をやきもきさせてしまったことなどを思い出します。実験装置は美しくなければだめだと Rath 先生に言われたことも良く覚えています。私が微小重力環境を利用した研究にその後も携わり、学生教育の場に身を置いているのもあの貴重な 2 年があったからだ、と Rath 先生に深く感謝しております。

Rath 先生はパーティ好きな方で、ZARM では多くのパーティが催されました。何かのパーティで応援団のパフォーマンスを私が披露したところ、Rath 先生に気に入っていただけただけで、その後機会があるとニコニコしながらリクエストして下さったことも私には良い思い出です。そのような茶目っ気のあるお人柄であったからこそ、Rath 先生の周りに人が集まり、資金が集まり、あれだけの大きなプロジェクトを立ち上げ、維持し、発展させることができたのではないのでしょうか。

Rath 先生から教えていただいた微小重力環境利用研究の面白さや楽しみ方を次世代に必ず伝えたいと Rath 先生に約束し、追悼文の結びといたします。

---

日本大学 生産工学部機械工学科  
〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1  
(E-mail: nomura.hiroshi@nihon-u.ac.jp)